



東京YMCA

2014 7/8月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 発行人 廣田光司
135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

We build strong kids, strong families, strong communities. YMCAは、たくましい子どもたち、家族の強い絆、支えあう地域社会を築きます。

発達障がい — 支援の現状と展望

上野一彦氏 「ASCA」クラススーパーバイザー 講演



上野一彦氏

東京学芸大学名誉教授。1990年に「全国LD親の会」を、92年に「日本LD学会」の設立に携わる。LD判断のための各種調査票や尺度を開発。1994年から日本LD学会会長。東京YMCAでは96年に発達障がい児支援クラス「ASCA」を立ちあげスーパーバイザーとして関わっている。

発達障がいの第一人者である上野一彦先生が7月13日、「発達障がいのある子どもの支援と展望」と題して講演。会場の東京YMCA医療福祉専門学校には教育関係者や保護者約100人が訪れました。一部ですがご紹介いたします。
*YMCAでは法定用語を除き、「障がい」と表記しています。

「障がい」という言葉が盛り込まれるようになり、2013年には「障害者差別解消法」が成立。また今年2月には「障害者の権利条約」が発効されました。これからは、発達障がい者に対する社会的責任がますます高まるといわれています。

教育における障がいの権利

「障害者の権利条約」は、教育面では2つのことを定めています。1つは、すべての子どもが差別されず、必要に応じて適切な支援を受けながら教育を受ける権利がある(インクルーシブ教育)ということ。もう1つは、「合理的な配慮の提供」です。一人ひとりの特徴に合わせた、合理的な配慮のある教育が必要だということです。発達障がいという特徴は千差万別です。また同じ子どもでも、成長の段階で変わってきます。特徴をよく見極め、それぞれに合った教え方をすることは、とても大事なことです。

福祉・医療・心理の連携が必要

学校教育には、学習と人間関係の2つの柱があります。その中で、学習が中心に置かれる傾向がありますが、発達障がいの子は、学習だけでなく、人間関係の構築が難しい場合があります。そのため、福祉・医療・心理の連携が必要になります。

理解と支援を必要とする個性

「障がい」という言葉は、昔を私(白石一文著、集英社)という小説は、主人公が「注意欠陥・多動性障害」を抱えていることが明らかになります。発達障がいは、適切な支援が得られれば、社会に貢献できる可能性があります。

豊かな人生をまっとうできるように

最近ベストセラーになった「彼もどおろし」(白石一文著、集英社)という小説は、主人公が「注意欠陥・多動性障害」を抱えていることが明らかになります。発達障がいは、適切な支援が得られれば、社会に貢献できる可能性があります。

アスカクラスについて

東京YMCAの「ASCAクラス」は、アカデミックスキル(学力)、ソーシャルスキル(社会性)、コミュニケーションスキル(伝達能力)、アソシエーション(仲間作りをする場)の頭文字をとって名づけられた、発達障がい児支援クラスです。1996年の開設当時は、まだ他に発達障がい児の支援機関がなく、上野一彦先生をはじめとする専門家集団とYMCAとで、独自にトレーニング方法を開発してまいりました。このトレーニングは、今では公立の小学校などにも普及し、広く使われるようになってきました。

現在ASCAクラスは、都内3ヶ所で開講しています。また全国各地のYMCAでもさまざまな支援クラスを展開しているほか、余暇活動、キャンプなども行なっています。

詳細は以下にお問合せください。
・西東京センター(国立駅) tel. 042-577-6181
・南センター(経堂駅) tel. 03-3420-5361
・東陽町センター(東陽町駅) tel. 03-3615-5565



会場には、教育関係者・保護者など約100人が来場し、熱心に聴き入った。

「発達障がい」の現状と法整備
私は約50年間、発達障がいの子どもの指導に携わってきました。当初は大学で10数人の子どもたちを指導の対象に取り組んでいたのですが、1992年に1年間アメリカで学んだ後は、「これで間に合わない、学校教育のシステムそのものを変えなければいけない」と思い、学校に発達障がいの可能性のある児童生徒がどれくらいいるか、全国調査を行うことになりました。すると「知的発達遅滞」という結果がでました。その後2005年に「発達障がい者支援法」ができて、あらゆる法律に、発達障がい者の存在を忘れてはならないという意識が広がりました。

2012年に再び全国調査をしました。10年前と違って、発達障がいへの理解が浸透してきているため、対象校を無作為で選ぶことができませんでした。結果「著しい困難を示す」子どもの割合は6.5%とほぼ同数です。しかしその子たちは、個別に教育支援計画が作られ、「通級による指導」を受けたり、何らかの支援を受けていることも多くなりました。中には自宅から離れた他校へ通わなければならないとか、学級定員が多すぎて配慮が行き届かないなど、課題も多くあります。何らかの対策が講じられています。

けれども私は、もっと症状が軽いけれども支援が必要な子どもたちがこの数倍はいると思っています。実際にアメリカでは、軽度の子どもが重度の子どもよりも圧倒的に多いのに、日本ではほぼ同数です。つまり、調査に表れていない支援が行き届いていないと感じています。

子育てコラム

育つ種に水を注ぐ
私の大切にしているものに「神様は子ども一人ひとりに育つ種を与えられた」という言葉があります。これは、元お茶の水女子大学の教授で、愛育養護学校の校長として障がい児の教育に打ち込まれ、保育界で保育者や研究者にも尊敬されている津守眞先生の言葉です。私にとっては宝のよ

育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ

育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ

育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ

育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ
育つ種に水を注ぐ

赤三角

7月上旬に米国コロラド州、エステスパークYMCAで開催された世界YMCA大会に、ワイズメンスクラブ国際本部代表として参加した。前回の香港での世界大会から4年があっという間に過ぎ、私のジュネーブ本部での勤務も4年になる▼ワイズメンスクラブ(通称:ワイズ)は、YMCAのパートナー団体という、他の国際奉仕クラブの中でもユニークな組織として92年間YMCAと歩んできた。日本に居るときは思わなかったが、日本のYMCAとワイズの関係は世界に誇れるパートナーシップが具現化されている。これは一重に先達の主事・スタッフ・ワイズ・会員の皆さんの「YMCAの為に」という熱き思いと努力があったからだと思う▼今回の大会では、YMCAが若者の活躍を推進する本来の運動体に変革していくための4カ年計画「OUR WAY」が作られた。世界YMCAがさらに次の4カ年計画を終える時には、ワイズは創設100周年を迎える▼日本の若きボランティアや会員がどんな世界に出て、外から日本のYMCA運動の素晴らしさを体感し、感動してもらえればそのエネルギーは変革をさらに加速させると確信する。YMCAもワイズも次の世代への運動の担い手が活動できるスペース/ロビーを提供するのが我々の責務である、ロッキーの山に抱かれて思った。(ワイズメンスクラブ国際協会本部 西村隆夫)



水彩画、油絵、手芸品、陶器など78点が並んだ。会員や会員の家族、役員、留学生など東京YMCAに関わるさまざまな人が出展した。

見隆夫氏、新槐樹社准委員の菅谷功氏の4人でハサミを入れて、まず開場。希望者には菅谷氏の優しいあたたかな講評が受けられ、鑑賞に十分な時間が費やされました。

水彩画、油絵、書道、水墨画、写真、陶器、工作の絵付け、手芸品と個性あふれる力作が多く、応募された作者には、毎年、個展、グループ展に出展されておられる人もいます。

78の力作 東陽町を彩る

第17回 会員芸術祭開催

6月30日から7月5日まで、毎年恒例の会員芸術祭が開催されました。場所は東陽町センター1階正面の多目的室。開催に先立ちオリブニングセレモニーが6月28日に開かれ、出品者、氏、会員部運営委員長・小原武夫氏、実行委員長・浅

見隆夫氏、新槐樹社准委員の菅谷功氏の4人でハサミを入れて、まず開場。希望者には菅谷氏の優しいあたたかな講評が受けられ、鑑賞に十分な時間が費やされました。

水彩画、油絵、書道、水墨画、写真、陶器、工作の絵付け、手芸品と個性あふれる力作が多く、応募された作者には、毎年、個展、グループ展に出展されておられる人もいます。

(11面から続く) 加し、社会人として自立できる障がい者。小中学校の段階からそれを視野に入れて、生涯の個別支援計画を作っていくことが必要です。年をとって、親がいなくなっても、社会の中に参加して、豊かな人生をまっとうできること。これからの支援にはこれが欠かせないと思っています。お年寄りだったら、ケアマネジャーがいて、その家のさまざまな相談にのりますよね。そういう生涯を通しての支援があれば、親だって安心だと思えるのです。

2014年度 表彰賛助会員

- 継続10年 有限会社ツカサエンタープライズ
- 継続15年 株式会社トップナッチツーリスト 京王観光株式会社 東京南支店 株式会社集英社 株式会社J-オイルミルズ
- 継続20年 清水井産業株式会社 理想科学工業株式会社
- 継続45年 株式会社木村洋行 日本電波工業株式会社 パナソニック株式会社 株式会社小学館 東燃ゼネラルグループ東燃ゼネラル石油株式会社

児童養護施設に暮らす子どもたち

東京育成園園長 渡辺 俊彦氏 現在、全国には599の児童養護施設があり、約3万人ほどの子どもたちが暮らしている。昔と違い、9割以上は親がいる子どもたちで、その内8割は何らかの虐待を経験している。虐待件数は全国的に増えており、昨年度の相談件数は約6万7千件。この10年で1か月平均7人の子どもが虐待により亡くなっている。背景には、家庭・夫婦関係の破たんがあり、多くの子どもが難民化しているとの警告もある。施設では、専門家による治療や親への働きかけなどを行ない、親子関係が疎遠にならないように、親元へ戻れるよう努めている。YMCAのキャンプを経験できることは大変ありがたい。参加した子どもたちは一回り成長し、楽しかったと言って帰ってくる

第二部の懇談会席上では、伊豆大島台風災害復興支援活動について、担当職員村上祐介から、多くの方の協力により各種の活動が実施できたこと等報告があり、感謝のうちに閉会となった。

賛助会年会・アドバイザー会

日ごろ東京YMCAを支援して下さる企業・団体に感謝や表彰を行うため、7月11日、恒例の「賛助会年会」を開催しました。会場となった千代田区公会堂には、賛助会企業16社と、アドバイザー、ティールンやバサナーなど、

ベントのサポート、各種の募金等協力など、さまざまな形で東京YMCAを支えて下さっている。この日は、勝田正佳評議員会長の開会挨拶に続き、北城格太郎賛助会会長(日本アイ・ピー・エム株式会社相談役)から、会員への感謝が述べられた。北城会長は、「現代社会には、たとえは少子化、子ども

もの貧困、教育など、幾多の課題があるが、国や地方自治体だけでは細かいところまで対応できない」とある。この日は、北城会長から感謝状が贈呈された。

その後、「児童養護施設に暮らす子どもたち」をテーマに、社会福祉法人東京育成園園長の渡辺俊彦氏による講演があった。渡辺氏は、毎年東京YMCAのフレンドシップファンドの支援によって、育成園の子ども数名がキャンプに参加できることへの感謝と、児童養護施設の現状について語られた。

トピックス

英語講師らが母国文化を紹介

東陽町語学教育センター

子どもたちに楽しく異文化に触れてもらおうと6月21日、東陽町センター1階カフェテリアで、「インターナショナルデー」を実施しました。外国人講師、にほんご学院の学生たち、ボランティアの方々等たくさんの方がイベント運営に参加してくださいました。今年度はお祭りの屋台のように10カ国(アメリカ、メキシコ、ロシア、ケニア、フィリピン、ネパール、モンゴル、中国、ベトナム、日本)のブースを企画し、さらには国際協力募金のブースも準備しました。当日は2歳から小学生まで約90人の子どもたちが参加し、それぞれ趣向を凝らした異文化紹介を体験しました。異国の衣装、食べ物、おもちゃなどを初めて見た子どもたちは目を輝かせ、世界へ視野を広げる楽しさを感じてくれたようです。



今後も英語教育を通して、世界と地域を見つめ、考え、行動する「地球市民」を育てる活動を精力的に行なって参りたいと考えています。(東陽町語学教育センター 白鳥弥生)

東日本大震災復興支援 チャリティーコンサート

東京白金高輪ワイズメンズクラブ

東日本大震災直後の2011年3月末、支援をしたい、との思いから、当クラブメンバーの1人が所属する「早稲田大学ハイソサエティオーケストラO B」(High Society Reunion Orchestra)に声をかけ、玉川聖学院の承認を得て、同年11月に第1回目のチャリティーコンサートを開催し、東京YMCAに募金させていただきました。その後、「また聞きたいよ」との多くの声に後押しされ、第2回目を今年7月5日、同学院で再び開催することができました。東京YMCAに後援していただき、廣田光司総主事もご挨拶くださり、とても楽しくにぎやかで、予定通りの



成果をあげられたかな、と思っています。来場者は約220名でしたが、純益272,000円をすべて東京YMCAに献金させていただきました。条件がそろえば、さらに第3回、第4回、第5回・・・と続けられればと思っています。ご後援くださり、大変ありがとうございました。(東京白金高輪ワイズメンズクラブ コンサート実行委員長 小林義彦)

シリーズ 資料室の窓から(86) 長尾理事長の「しんめんもく」 齊藤 實 本会元副総主事

戦前の話である。「戦前」とは、日本が戦争に至る道をはたすら歩んだ時期をさす。私はいま、1934年(昭和9年)の初夏の記事に、目を留めていた。 さて、こうしたさなかの1934年5月、東京YMCAは理事長長尾半平の古稀を祝う感謝会を開いた。「東京青年」は記録として見出しを「長尾先生の真面目」とした。台湾総督府土木局長を終えて長尾が台湾を去る時、官民が記念銅像建設を申し出た。しかし長尾は「私の銅像が風雨に曝され鳥の糞の積り場になるよりも」と、拠金を有為の台湾青年への奨学金に向け、

この時期、日本帝国陸軍は1931年9月に満州事変を起し、1932年5月1日には青年将校らが犬養首相を射殺し、1934年10月に陸軍省が国家改造を示唆する「国防の本義と其強化の提唱」を頒布した。その冒頭で「たかひは創造の父、文化の花である。」と記し、「国民と軍隊とは一体となつて武力戦争に参与する」という国家総動員なる思想」を唱導していた。 さて、こうしたさなかの1934年5月、東京YMCAは理事長長尾半平の古稀を祝う感謝会を開いた。「東京青年」は記録として見出しを「長尾先生の真面目」とした。台湾総督府土木局長を終えて長尾が台湾を去る時、官民が記念銅像建設を申し出た。しかし長尾は「私の銅像が風雨に曝され鳥の糞の積り場になるよりも」と、拠金を有為の台湾青年への奨学金に向け、

